

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	げきだんかぜのこちゅうぶ 劇団風の子中部	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	代表取締役 西川典之	/	
制作団体所在地	〒 500-8241	最寄り駅(バス停)	名鉄名古屋本線 茶所駅
	岐阜市領下21番地16		
電話番号	058-215-7780		
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこちゅうぶ 劇団風の子中部	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	代表取締役 西川典之	/	
公演団体所在地	〒 500-8241	最寄り駅(バス停)	名鉄名古屋本線 茶所駅
	岐阜市領下21番地16		
制作団体 設立年月	2010年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 西川典之 事務局長 田島千穂 創造部長 榎田真理子	【創造部】榎田真理子、大熊勝利、榎田大介、井野口祥平、川尻晴菜、古山かな恵、神田純平、橋本弥侑、高原真理子、坂田如 【制作部】西川典之、田島千穂、石井貴大、阪井大輝、小寺真由子、関由美	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	西川典之
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	田島千穂
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	kazenokotoukai@mtj.biglobe.ne.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1950年、劇団風の子が東京下北沢で創立。 1987年、劇団風の子の地方事務所として愛知県一宮市に東海事務所を開設。 1992年、事務所を岐阜市に移転し、2009年まで普及を中心とした活動を展開。 2010年4月、劇団風の子から運営独立し「劇団風の子中部」を岐阜市に設立。 2018年4月、株式会社劇団風の子中部として法人独立し、現在に至る。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>【2018年度公演実績】 「ばらりっとせ」:104日 114ステージ 全作品公演 合計254日 294ステージ 【2019年度公演実績】 「ばらりっとせ」:114日 121ステージ 全作品公演 合計275日 307ステージ 【2020年度公演実績】 「ばらりっとせ」:87日 100ステージ 全作品公演 合計 181日 268ステージ 【2021年度公演実績】 「ばらりっとせ」:48日 75ステージ 全作品公演 合計 262日 389ステージ 【2022年度公演実績】 「ばらりっとせ」:42日 59ステージ 全作品公演 合計 230日 324ステージ 【2023年度実施校並びに2学期実施予定校】 「ばらりっとせ」:46日 49ステージ 全作品公演 合計 281日 349ステージ</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>【静岡県】静岡南部特別支援学校、静岡中央特別支援学校、袋井特別支援学校 【愛知県】岡崎市みあい特別支援学校 【岡山県】岡山県健康の森学園特別支援学校 【富山県】富山県立高志支援学校 【岐阜県】岐阜県立関特別支援学校</p> <p>ほか公演実績有</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/a3Qt7_iWlo4</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団風の子中部 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	劇団風の子中部「ぱらりっとせ」公演			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「ぱらりっとせ」 作・演出/中島研 「はなさかこぞう」脚本/榎田大介 美術/有賀二郎 音楽監修/曲尾友克 わらべうた指導/古賀由美子 衣装/田島千穂・岡本志摩子 制作/西川典之			公演時間 60 分
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>【主な内容】</p> <p>◇わらべうた、お手玉、なわとび、風車、竹馬、まりつき、傘回しなどの昔遊び、伝統芸能。茶店、物売りの声。岐阜県のわらべ歌を中心に、あそびとわらべ歌を合体させて遊びを豊かに表現します。昔からの遊びの表現に、我々自身が考案した新しいあそびの数々を演じます。</p> <p>◇三味線語り芝居「はなさかこぞう」のあらすじ</p> <p>むかしむかしあるところに一平という笛の好きな男の子がいました。お腹を空かせた一平が柿の木をながめていると、川から見たこともないようなでっかい柿が流れてきて…。柿の中から現れたのは犬のシロ。ある日、一平とシロが家に帰ってくると、おっかあが腰を痛めて苦しんでおりました。おっかあを心配する一平を見た犬のシロは、一平を背中に乗せ、お城へとやってきます。シロに促された場所を鉄で掘ると出て来たのはひょうたん。そのひょうたんはいくらでも米の出でくる不思議なひょうたんでした。これでおっかあを楽させてやれると喜ぶ一平とシロ。ところがそこに現れた殿様にひょうたんを取り上げられ、無理難題を押し付けられた一平とシロ。はたして無事ひょうたんを取り返し、おっかあのもとに帰ることができるのでしょうか。</p> <p>(受賞歴)</p> <p>2018年度厚生労働省社会保障審議会推薦・児童福祉文化財。 2017年夏「第25回アシテジ韓国・国際夏フェスティバル」参加。</p>			
演目選択理由	<p>*現代の子どもたちを取り巻く環境は、仲間、空間、時間という子どもが成長発達していくために必要な3つの“間”が奪われつつあり、コロナ禍以降その傾向はより一層加速したように思われてなりません。かつて子どもたちは群れの中で成長してきました。しかし、今はどうでしょう。塾とおけいご事に日常生活の大半を奪われ、友達と群れて遊ぶ時間が無くなっているのです。しかも、子どもの遊びはゲーム中心になり、ネット環境に支配されているといっても過言ではありません。そんな状況の中で、子どもの本来の遊ぶ力と呼び戻したい。そこで育まれるリアルな人との関係、コミュニケーション能力の育成を図りたいと考えます。</p> <p>*「日本の伝統文化の継承」岐阜には昔から職人の手によって継承されてきた美濃和紙、和傘、提灯など伝統的な工芸品が数々あります。現在、和傘の要である“轆轤(ろくろ)”を作る日本でただ一人の職人・長屋一男さんは劇団のすぐそばにある街、岐阜県岐南町にいらしゃいます。そんな地元での取材を重ね、素材を生かしながら劇空間(大道具、小道具)を創り上げました。日本人が長い時間をかけて生み出してきた伝統文化の力を再発見し、今を生きる子どもたちに先人の生み出してきた文化の深さ、あたたかさを感じてもらいたいと思っています。</p> <p>*三味線語り芝居「はなさかこぞう」は一人が三味線の生演奏や日本の伝承楽器であるさら、拍子木等で効果音を入れながら、物語を語り、二人の演者が複数の登場人物を演じ分ける演出になっています。使われる小道具も極力シンプルな“見立て”にこだわり、役者の表情や仕草、身体表現で子どもたちの想像力を引き出すことを主眼に置いています。この演出が子どもたちの想像→発想力の育成につながると考えます。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>本公演後、体験型伝承遊びワークショップを実施し、実演参加。 ・公演後ステージ上にて、希望の児童によるお手玉、なわとび等の伝承遊びの実演体験。</p> <p>退場の際、鑑賞児童全員に、より身近に舞台を感じてもらうためのバックステージツアー。</p>			
出演者	大熊勝利 川尻晴菜 橋本弥侖			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 まぬ	出演者: 3 名 スタッフ: 1 名 合計: 4 名	運搬	積載量: 1 t 車長: 5.38 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間			時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	7:00	7:00～9:30	11:00～12:00	無	13:00～14:30	14時40分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	0日	0日	0日	0日	0日	
	11月	12月	1月	計	15日	
	0日	0日	15日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	5～20名
		鑑賞人数目安	50～250名



公演に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。

【公演団体名 劇団風の子中部 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30名(1クラス程度)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>◇児童の緊張感をほぐすための表現ワークショップを行い、表現しやすい心と体をつくる。 ・本公演当日の事前ワークショップ ①劇団(講師)の自己紹介 ②リラックスするために、あそびを取り入れた表現あそび(集団あそび)を行います。 ③お手玉等伝承遊びに触れる体験を行います。 ＊ワークショップの主目的は「表現しやすい心と体」をつくる事とし、本公演出演のためというより、日常の学校生活の中での表現(コミュニケーション)の一助にもなるような内容にしたいと考えます。 ・本公演終了後の伝承遊び体験コーナー(舞台上で出て来たなわとび、お手玉等の体験)15分程度の体験コーナーを設け、その場の希望者数名にお手玉、なわとび等の伝承あそびを体験、実演してもらいます。 ＊本公演鑑賞直後の子どもたちの「自分もやってみたい」気持ちを生かすべく、その場で演者より「やってみたい人！」と呼びかけ、希望者を募る形式での参加に対応していきたいと考えます。 もちろん場合によっては、事前に先生方と打ち合わせて希望者を決めておく形式にも対応いたします。</p> <p>退場の際、鑑賞児童全員に、より身近に舞台を感じてもらうためのバックステージツアーの実施。</p> 		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>・学齢期、特に思春期にさしかかる子どもたちは、他者の目を意識し、人前に立つ、話す、演じるという行為に対して、苦手意識やプレッシャーを感じる子が少なくないと思われます。そんな子どもたちに、「あそび=PLAY=演劇」の手法で心と身体を解放し、子どもたちが本来持っている遊び心と呼び覚まし、遊びの延長線上にある舞台表現の楽しさを味わってもらうためのワークショップを実施したいと考えます。 ・なわとび遊びのわらべうたの中で、縄のまわし手が飛び手にこう聞きます「牛がいいか、馬がいいか」飛び手が「馬がいい」と答えると、回し手はとびきり早く縄を回し、「牛がいい」と答えるとゆっくりまわす、という遊びが岐阜県東濃地域に残っていました。昔の遊びの中に、お互いがコミュニケーションをとりながら遊びを展開するというわらべうたの発見は、今矢われつつあるコミュニケーション力を取り戻す機会にならないかと期待しています。 ・なわとびの場面では伝承遊びだけでなく、ダブルダッチの技もいくつか披露します。子どもたちには、ダブルダッチへも挑戦してもらい、未知なる技への挑戦をきっかけに、パフォーマンスも含む舞台芸術への興味と芸術鑑賞能力の向上を図りたいと考えます。 ・また、バックステージツアーを実施することで、美濃和紙、和傘、提灯など伝統的工芸品の素材を生かした劇空間(大道具、小道具)を間近で見学し、伝統文化の美しさ、深さ、あたたかさを感じてもらい、日本に古くから伝わる文化を見直す機会になればと考えます。また、語りで使用する三味線、効果音使用のさら、拍子木等、あまり目にすることのない楽器を見学し、和楽器への興味、関心を高めてもらいたいと思います。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>特別支援学校では、子どもたちによって支援の状況が異なるので、先生方と事前に相談、打合せを行い、表現方法の可能性を探っていきたくと考えます。例えば、伝承あそびワークショップでは、ひとつのお手玉を使ったシンプルな遊びの展開、拍子木等でリズムを刻む音遊び等も考えられます。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団風の子中部

】

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

①本事業に対する取り組み姿勢

日本中の児童青少年が、地域格差や各家庭の経済格差等で差別されることなく、平等に文化芸術の機会を得ることの出来る芸術鑑賞教室というシステムは世界的に見て稀有な存在です。しかし、近年、少子化の加速、子どもの貧困(要保護・準要保護)家庭の増加による観劇料の徴収不可等で、学校単独での鑑賞機会が激減しています。そこに新型コロナウイルス感染症による行事見直しが加わり、いまや芸術鑑賞行事そのものの開催が難しい状況にあると実感しています。

劇団も経費を抑えての公演形態を探りつつ、消毒の徹底やソーシャルディスタンスの確保を目的としたステージ数の追加等の対策を講じてきました。感染症に関しては徐々に緩和傾向にあるとはいえ、以前からの課題(少子化等)が立ちはだかる現状の中で子どもたちへの鑑賞機会を創り続けることの困難を感じています。

本事業は、このような状況を打ち破る大きな力になると確信します。子どもにとって文化芸術、演劇は生きる力です。当劇団も、子どもたちの発想力、想像力、コミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的として、本事業に取り組むたいと考えます。本事業の推進力は子どもたちを取り巻く状況を変革していく力になると確信しています。

◇子どもたちにとって文化芸術を鑑賞することは、娯楽的な要素を持つものではなく、子どもの成長発達には欠かせない体験であることを広く普及し、芸術鑑賞能力の向上を図りたいと考えます。

◇テレビ・インターネット等による子どもの成長発達に及ぼす影響を考えた時、子どもが目の前で繰り広げられる生の舞台芸術に触れる機会を持つことの重要な意味を、地域の方たちと共に考え、芸術鑑賞の意味を深めていきたいと思えます。

◇芸術家の育成事業も担っていききたい。この体験は本物の舞台芸術に触れることによって、子どもの自己表現能力を養成し、次なる芸術家を育てる礎になるような機会として創っていききたいです。

◇C区分の地域で公演する意味。これまで地域格差のために舞台芸術の鑑賞の機会を奪われていた子どもたちに、本物の舞台芸術に触れる機会が与えられることの意味は、計り知れないほど大きな意味があると考えます。それは、社会包摂的な意味合いも含めての意義だと確信しています。

◇私たちが提出している「ぱらりっとせ」という作品は、今一度自分たちが住んでいる地域で育まれてきた、貴重な文化や伝統の掘り起こしを促進する力になると考えます。私たちもこの作品を創るにあたって、地域を歩き、取材旅行なども敢行しながら、地域に眠る文化を掘り起こしてきました。地域を見直す力を生み出していくことは、地域での子どもたちの健全育成にも寄与するものと考えます。

以上の目的をもって、その実現のために本事業に申請します。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

1. 採択された学校には迅速に対応し、次年度の学校行事のスケジュール調整に間に合わせて、本公演の日程を調整し、スムーズな学校運営ができるよう配慮します。

2. 令和6年度4月には、新担当教諭に迅速に連絡をして、これまでの経緯とこれからの進め方の再確認をしっかりと行います。

3. 打合せのため、学校に直接伺い、確認事項を再度確認し、本公演(当日ワークショップ)をスムーズに進行できるよう、打ち合わせをしっかりとやりたいと考えています。

4. 子どもたちが、緊張感で表現できなくなるような事にならないよう、具体的に子どもたちの心と体を解放できるようなワークショップを考えています。これまでの実績として、2000年より、多くの学校で学芸会の指導をしてきたスキルを生かして臨みたいと思えます。年間40日以上学芸会指導、教職員対象の研修、教育学部の学生向けのワークショップなど実施してきた経験を最大限生かしていきたいと考えます。子どもたちが、ドキドキワクワクするような取り組みを生み出します。

5. 子どもたちへの言葉がけ・・・否定的な表現は使わない。肯定的な言葉がけに徹して、ワークショップ・本公演の環境を子どもたちが安心して自己表現できるように配慮します。

6. 公演当日は、ワークショップ、本公演以外の場面でも、子どもたちとのコミュニケーションが図れるよう、体育館は開放的な空間にし(もちろん安全に考慮し)、本番への昂揚感を高めます。

7. リハーサルは短い時間の中で、集中力と適度な緊張感を促し、かつ表現すること、舞台に立つことの楽しさを追求しながら、本番に向かっていきます。

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

劇団風の子中部

】

- ① 離島・へき地等における公演実績
 平成31年度芸術文化振興基金 現代舞台芸術創造普及活動助成 採択「ばらりっとせ」東北地域小規模小学校巡回公演 9か所9公演
 令和3年度芸術文化振興基金 現代舞台芸術創造普及活動助成 採択「ばらりっとせ」中国地方幼稚園保育園等施設巡回公演 6か所6公演
 その他、中部地方を中心とした山間部へき地小学校での演劇教室多数
 2016年1月12日～29日 沖縄本島・宮古島・伊平屋島巡回公演等
- ② 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫
 ◇これまでも、機動力を生かし、離島・へき地での公演は数多く経験してきました。その経験を活かして、あらゆる状況に対応していきたいと考えています。
 積載道具もワゴン車1台分なので、フェリーがない離島での公演も、地元の方の協力のもと漁船等に積み替えての移動も可能です。
 特殊な状況の場合は、公演前後の時間の余裕等をもって対応したいと考えます。
- ◇作品そのものの演出が、少人数編成に即したものであるため、1人が何役もこなし、舞台セットもシンプルで、音響機材は使用せず三味線や笛などの楽器演奏はすべて生演奏する等、小規模な作品であっても見ごたえのある作品になっています。
- ◇2013年初演の本作品は小規模小学校、幼稚園保育園、コロナ禍における大規模校での複数回公演(学年毎公演)、2017年には「第25回アシテジ韓国・国際夏フェスティバル」に日本代表として参加し、公演、体験型ワークショップともに各地で好評を得てきました。その経験から得た、幼児から高齢者まで幅広い年代の観客層に対応出来る特性を生かし、児童数の少ない地域での公演に他の年代の観客層を巻き込み、地域全体で文化芸術に触れてもらう機会をつくれと思います。
- ◇作品の質を保つため、少人数編成における出演者の体力の消耗、けが等のリスクにも配慮し、常時スタッフを1名補充して公演にあたりたいと考えます。
- ③ C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫
 ・基本的に(*)出演者とスタッフ計4人と、すべての舞台道具を積載したワゴン車1台での運搬移動が可能です。
 (*)地域によっては他交通手段を利用する場合も有り。
 ・出演者がワークショップ講師も兼ねるため、少数精鋭部隊での移動となります。
 以上2点の工夫により、移動にかかる車両運搬費、交通費、宿泊、日当などの経費削減を実現できると思います。

C区分で事業を実施するに当たっての工夫